

編集後記

- 会計ビッグバンの影響を見極めようと、第2回研究大会を9月に関西大学で開催した。基調報告「金融サービス法とディスクロージャー」、特別セッション「金融機関のディスクロージャー」及び公開シンポジウム「21世紀のディスクロージャー－20世紀のそれを反省して」と集中的に論議した。また、大学院生4名の報告を含め、自由論題も活発であった。
- これら報告を主に、さらに一般応募も含めて、第2号の編集が始まった。一般応募を考慮して、原稿を「論文」(第1号では研究論文に相当)と「ノート」(同じく報告論文に相当)と呼ぶように改めた。
- 編集委員会と査読体制を強化した。編集委員会を3名体制から7名体制に増員した。また、編集委員の推薦により投稿論文ごとに査読委員2名を決定した。本号は6本の投稿があり12名が査読に関わった。その結果は、「論文」採択3本、「ノート」採択2本、不採択1本であった。
- 採択された論文は査読委員からのコメントに従って何度も書き直しされた。最初の投稿から本誌の最終確定まで年末年始をはさんで2ヶ月半を要した。ちなみに事務局のPCの記録を見ると、この査読関係で受信が153通、発信が212通の合計365通がネット上を行き交った。しかし、本誌が出来上がるまで、図表の確認のための1回を例外として、郵便は利用されていない。
- 第1回大会時の会員が88名、その後退会1名、入会61名であり、第2回大会時には148名となった。第3回大会は2001年10月20日、日本大学商学部にて「新世紀の情報公開と開示」を統一論題として開催の予定である。
- ネットの世界から誕生した本学会も、リアルな世界で第3回大会を迎える。しかし、インターネットは広く浸透していることから、ホームページの再強化を図る必要がある。バーチャルとリアルの多次元的情報交換を実現したい。

(柴)

現代ディスクロージャー研究 No.2

2001年3月20日 発行

◎発行者 ディスクロージャー研究学会
発行所 〒564-8680
大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学商学部：柴研究室内
TEL 06-6368-1121(代)

印刷所 ナニワ印刷株式会社
